

らしみさらダボール子育て情報

「幼児期の3年間」

令和元年7月10日号

板橋富士見幼稚園



自ら学び、主体的に関わる

人間は、小学校以降、大学の卒業まで知識となる教科を学び続けます。そして大人となって、人格が完成されていくとされています。

しかし、自ら主体的に探求し、自由に探求することもできる学びは、残念ながら、幼児期を除いては、なかなか得ることができないのが実態です。

日本の教育は、73年間ずっと、「教育」＝「教え育てる」を押しつけ続けてきました。しかし、これからの時代は自分は何を学び、何ができるようになったのか、自分の資質と能力を自覚していくことが大切だと言われています。国際社会で活躍する豊かな人間性を育ち持つことは、誰しもが望むことかと思えます。



幼児期の3年間は、人生の中で自ら学び、主体的に関わることを認められた大切な時間となります。

幼児期に知識を詰め込んでも、小学校の9月になるとすべての子どもが同じ学力のラインに達すると言われます。しかし、その中でも幼児期に自発主体的に3年間学び続けた子ども達は、その後の学力が伸びると言われています。

つまりこの3年間に、遊びの中で、自分から好奇心や興味関心による、考える力、工夫する力、課題を解決する力などを体験することで、小学校で教科書の中に出てくる課題や問題を十分な力で解くことができるようになると言われます。

幼児期は、どんな生活を親が選択するかで、将来の人生が決定するとまで言われる大切な時期です。遊びの中で様々な体験を通して、学び得た思考する力や判断する力は、確実に学力観につながると言われます。夢中になって遊び続け、遊びの中で様々なことを学び取ることは、最も理想的な育て方ではないでしょうか。そのためにも子どもが疑問に思い質問をしてきたときは、丁寧に、教え伝えることが大切です。また、子どもの、したい、行きたい、食べてみたい、触りたいなどを十分にさせてあげたいものですね。